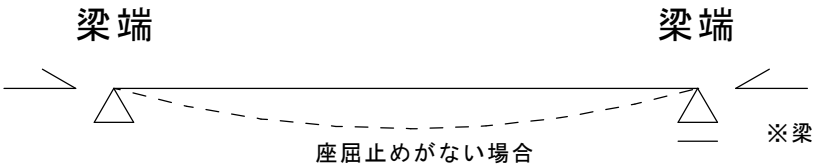
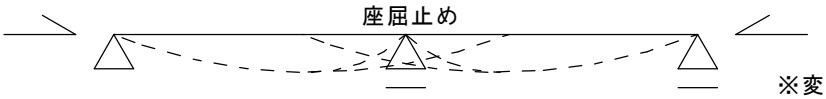


座屈止めがない場合

※梁端～梁端までが座屈長さ。

座屈荷重に有効に働く位置に座屈止が付いている場合

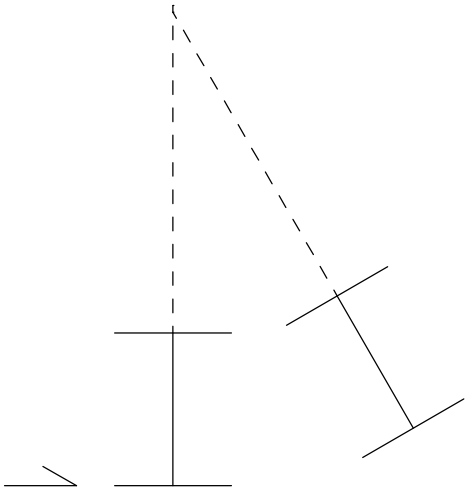
※変位、ねじれが拘束され座屈長さは梁端から座屈止めまでの長さ。



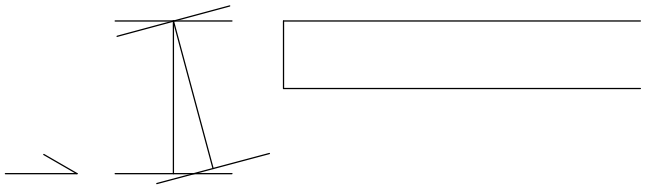
座屈止めが座屈荷重に対して偏心して取り付く場合

※変位は拘束しているが、梁が捩れるため座屈長さが長くなる。

Ｂのような変形が起こるため、有効座屈長さが変わり、
Ａのような変形は起こらないため、座屈止めに必要な軸剛性さえ
確保されていれば、座屈止めの部材自体は、ある程度有効？



Ａ.想定している座屈変形



Ｂ．座屈止めが偏心して取り付くことによる変形